

## “小さな願い”を叶える意思決定支援

当院では、人生の最終段階における医療・ケアの提供において、多職種から構成される医療・ケアチームで患者等に対し適切な説明と話し合いを行い、患者本人の意思決定を尊重した医療・ケアを提供しています。今回は地域包括ケア病棟(5階病棟)でのエピソードを紹介させていただきます。

### Episode : 孫の晴れ姿を見たい ~小さな願いに寄り添った年末のひととき~

『お正月は自宅で過ごしたい。孫の成人式の晴れ姿を見たい。』

そんな思いを語ってくださったのは、90歳男性のBさんです。

COPDと間質性肺炎により在宅酸素を使用され、再燃による入退院を繰り返されている状態で、長年連れ添った奥様と、看護師として支えている長女さんとの三人暮らしです。

「年末の体調を見ながら、自宅への退院を目指そう」と目標を定め、Bさんの希望に寄り添いながら、医師、NDC看護師、病棟看護師、退院支援看護師、介護福祉士、リハビリスタッフが連携して、退院支援の計画が進められました。

退院を前に、もう一つの小さな願いが形になりました。ご家族の協力のもと、年末に行われたお孫さんの成人式前撮りの日、華やかな着物姿での面会が実現しました。病室でのご対面に、Bさんは車椅子に乗りながらも、これまでにない穏やかな笑顔を見せてくださいました。



記念写真には、  
ご家族と過ごす幸せな時間がしっかりと刻まれました。

この出来事をきっかけに、Bさんの食欲や気力にも少しずつ変化がみられました。無事に年末にはご自宅へ退院され、お正月には「みんなに会えて、大好きなお刺身も食べられたし、チャンダムも見られた」と笑顔で語られていたのが印象的でした。残念ながら成人式当日は再入院となり、当日の晴れ姿を見ることは叶いませんでしたが、前撮りの日の面会についてご家族からは「小さな願いを叶えていただき、良い思い出になりました」と感謝の言葉をいただきました。

ご本人やご家族の思いにそっと寄り添う――

私たちはこれからも、そんな日々のケアを大切にしていきたいと思えます。